

2019年度 教員免許状更新講習（中学校・高等学校教諭（国語）対象）

日 程 8月6日（火）～8日（木）（予備日8月9日）

講習内容 選択領域 B 18時間（6時間×3日）

講習題目 「国語」に親しませる授業を目指して	
講習概要 中学校・高等学校の国語科教員を対象とし、生徒が「国語」に興味を持つ授業展開の一助となるよう、日本語学・日本文学・国語科教育の最新の研究成果や知見を紹介します。具体的には、文法・敬語などの日本語学、古典や近代の日本文学、さらには、国語科におけるアクティブ・ラーニングや表現力の育成について、それぞれの講師が専門分野の立場から、また、国語科教育の経験に基づいて講義します。	
8月6日	1 授業題目 表現力を育む国語科教育—新聞を用いて— 講 師 秋田 久子(元文学部 日本語日本文化学科教授) 授業概要 新聞を用いたグループワークを通じて、文章を正確に読解し、資料として用いて、自分の主張を表現する力を育成する授業展開方法を提示したいと思います。
	2 授業題目 外国語としての日本語 講 師 池谷 知子(文学部 日本語日本文化学科教授) 授業概要 「国語」としての「日本語」と、世界の言語の1つとして見た「日本語」は、同じ日本語を対象としながら全く異なる視点を持ちます。この講習では、言語学や日本語教育の観点から、「日本語」という言語を分析的に観察し、それにどのような特徴があるのかを考えます。
8月7日	3 授業題目 現行古典教材の成り立ちについて 講 師 黒木 邦彦(文学部 日本語日本文化学科准教授) 授業概要 現行古典教材の文字・表記に見られる問題点を確認したのち、古典に対する理解を深める為の方法論を講師が提案します。次いで、受講者の経験を踏まえながら、その是非を議論します。
	4 授業題目 文法・敬語の諸問題 講 師 田附 敏尚(文学部 日本語日本文化学科准教授) 授業概要 中学校・高等学校で教えられている学校文法は、ある程度整った体系ではありますが、これまで様々な面から問題点も指摘されてきました。その中からいくつかトピックを取り上げ、問題を整理しながら考察します。また、敬語についてもこれまでの3分類に対して、5分類とする枠組みが提出されていますので、その解説を行い、敬語の使用について考えてみたいと思います。
8月8日	5 授業題目 『人間失格』を読む 講 師 青木 稔弥 (文学部 日本語日本文化学科教授) 授業概要 太宰治が昭和23年の3月から5月にかけて執筆した小説を、直筆原稿→初出誌『展望』昭和23年6月号～8月号→初刊本『人間失格』の過程を追うとともに、映画化や漫画化の諸相、変容について考えます。
	6 授業題目 古典授業の研究—『源氏物語』における「垣間見」場面を中心に— 講 師 田中 まき(文学部 日本語日本文化学科教授)

	<p>授業概要</p>
--	--------------------

	<p>中学生・高校生にとって、古典文学に描かれた世界を映像として思い描くことは難しいものがあります。そこで、生徒が視覚的に古典世界を理解し、興味を持つように工夫することは、古典授業にとって極めて重要なことといえます。この講習では、『源氏物語』の「垣間見」場面のいくつかを例にとり、絵や資料を使った効果的な授業展開について考察します。</p>
--	--